

# どう展開、加工メーカー



C H鋼線・磨棒鋼事業ならではの製品開発もある。宮崎精鋼は冷間鍛造プレスニアネットシェイプ化を支える中間素材材(スラック)を日本で初めて商品化したパイオニア。線材を素材とする従来品にとどまらず、磨棒鋼や板材、中空品などさまざまな可能性を模索しながら商品開発を進める方針だ。

松菱金属工業もスラックに注力しており、新日鉄住金と連携しながら用途・商品開発を図っていく。新日鉄住金の高いインライン熱処理技術に着目して、「長年の実績があるDLP(ダイレクト・インライン・パテニング)線材で培った溶融塩ソルトパテニング技術でC H鋼線に活用したい」(氏家松菱金属工業社長)とのアイデアもある。自動車分野においては、

## ⑥ C H鋼線・磨棒鋼 ⑦

# 技術・製品開発を加速

## メンバー同士の連携も

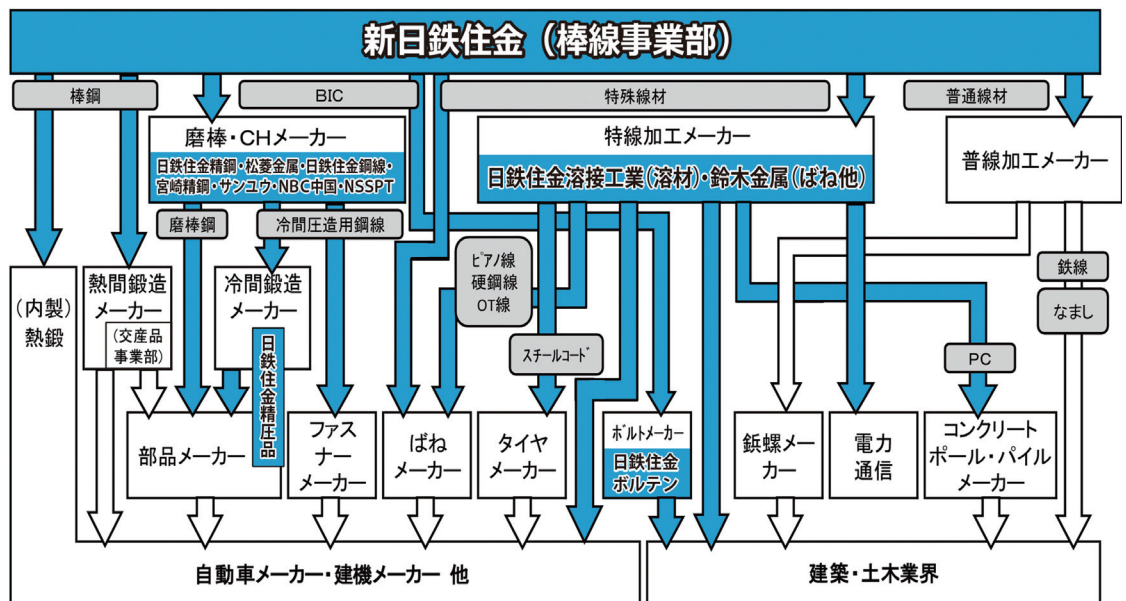
部品の軽量化ニーズから高強度歯車用鋼、高強度ボルトなどハイエンド商品が開発されている。西野サンユウ社長は「建築分野で実用化されている高強度ボルトでの知見を自動車分野に生

を組み合わせ、総合的なブランド価値を高めようとするのが基本的な考え方だ。西野社長は「これまでも鋼材×当社二次加工一貫での焼鈍省略合金線材や真直性に優れた非鉛快削鋼を提案してきた。ニーズを的確に捉えて新日鉄住金と連携し、お客様に喜んでいただく商品を開発していく」と考えている。新日鉄住金のタイアップが重要という意味では、

かすことも検討できる。建築分野以外での高強度ボルト普及に一役買いたい」と「FRCワイヤー(非りん

という好循環なサイクルをれらを使いこなすために二次加工メーカーで確立された製造技術・ノウハウをフルに生かして現地展開し、13年1月の統合前から旧両社(S PとNBCタイ)で培ってきたタイ固有の事情に対する豊富な経験も蓄積している。

中NSChも同様で、すでに宮崎精鋼・知多工場などで研修を盛んに行っている。野雄紀、谷山恵三(おわり)



縦横に広がる棒鋼・線材マーケット